

東松島市立野蒜小学校

2014年 12月 8日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1)「子どもの命は守られたのか」 教見隆生編著(2011)かもがわ出版
- (2)『東日本大震災における学校の対応-野蒜小学校-』宮城県 東日本大震災に係る教育関連記録集
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12399.pdf>

【場所】

海岸から約1.2km、東名運河から約200mの位置にある。

住所:宮城県東松島市野蒜亀岡

※現在は高台に移転し、別の小学校と統合して再開。



赤い範囲:東松島市

緑の範囲:野蒜小学校

【東日本大震災による被害】

津波により校舎が床上2.8m浸水、体育館が床上2.9m浸水した。

【震災当日の様子】

地震発生時、卒業式の準備で授業は終わっており、5・6年生のみ60人ほどが学校に残っていた。

地震後、体育館が避難所に指定されていたこともあり、子どもを迎えに来た保護者や避難してきた近隣住民、高齢者施設のお年寄りなどが次々と学校に集まった。この地域は津波浸水想定区域から外れており、多くの方は津波がくるとは考えておらず、寒かったこともあり、体育館という広い場所への避難となった。教職員や子ども・住民の何人かは校舎にいたが、校長をはじめ何人かの教職員が体育館へ誘導し、体育館内で居場所の設置と指示を行っていた。(1)

児童の引き渡しも行われており、下校中または保護者と避難中に9名の児童が亡くなっている。(2)

地震発生から約1時間後の15時52分頃、津波が体育館へ到達した。体育館内にも水が侵入し、まるで洗濯機内の渦のように回りはじめた。運良く体育館のギャラリーや2階に上がったり、マットなど浮いているものにつかまれた人は助かったが、10数名ほどの方が亡くなった。(1)(2)

【調査して言えること】

学校の標高は1.2mで、海からは約1.2km離れている。海から距離はあるが、標高が低いため、地震の際には津波を警戒する必要のある学校である。

学校のすぐ裏が山になっており、標高の高い場所にすぐに避難できる学校である。また、学校の敷地から裏山に続く道路に直接繋がっている階段が作られていた。



南から見た学校と裏山(2014/11/1撮影)

※校舎の向かって左手前に体育館があった。



学校の裏(北側)にある階段(2014/11/2撮影)

※校舎のすぐ裏側。